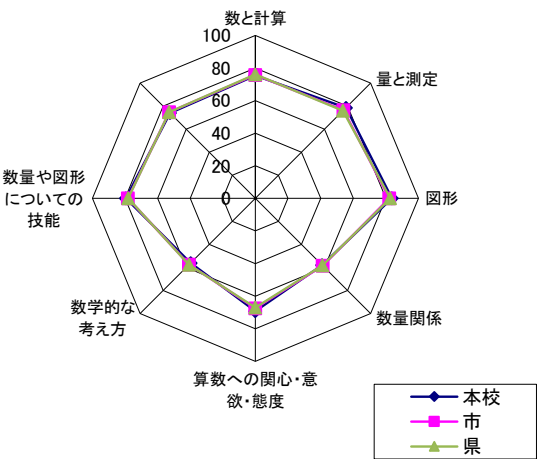


宇都宮市立桜小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	75.4	75.8	76.1
	量と測定	78.7	76.5	76.0
	図形	83.7	82.1	82.7
	数量関係	57.8	58.4	58.2
観点	算数への関心・意欲・態度	69.2	67.4	67.0
	数学的な考え方	56.1	57.5	57.7
	数量や図形□についての技能	79.5	78.2	78.1
	数量や図形□についての知識・理解	74.1	74.8	74.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○たし算、ひき算、特に答えが4けたになるたし算の問題は、県平均を大きく上回っている。 ○あまりのあるわり算で、答えが1けたになる問題では、県平均を大きく上回っている。 ●小数の問題で、相対的な大きさについての問題は平均を上回っているが、小数のしくみを問う問題では、県平均を下回っている。	・同じ小数の問題において顕著な差が出たことは、多面的に小数を捉える努力が不足している。ドリルの反復練習などで、いろいろな問題パターンを履修させていきたい。
量と測定	○時刻や長さ・重さを求める問題において、県の平均を上回っている。	・時間、長さ・重さなどの量の概念を確実なものにするために、継続的に指導し、定着を図る。
図形	○図形の領域においては、全て県や市の平均をやや上回っている。	・図形については、基礎的・基本的な技能の定着とともに、その活用や応用についての指導の充実を図る。
数量関係	●□を使った文章問題の正答率は県平均を上回っているが、□を使って立式する問題の正答率は県平均を下回っている。	・□を使った式の問題で二極化してしまったことは、基本の押さえ方に問題があったと考えられる。将来文字式に繋がることを考えると、応用的な問題にも対応できるよう、時間をかけて指導していきたい。